

376

各國

女兵士の出現

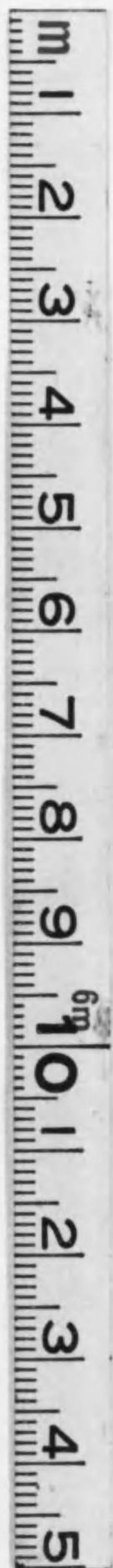
敬止著

特253

647



10
円



始



特253
647



尾瀬敬止 著

各國女兵出現の現

目次

- 一、日支事變と女軍の出現……………(一)
- 二、世界各國の女軍……………(三)
- 三、北支に暗躍するX廿七號……………(七)
- 四、ソウエートの女兵士……………(一〇)
- 五、歐洲大戰當時とロシア婦人……………(一三)
- 六、女子決死隊員の募集……………(一四)
- 七、盛大な閱兵式の舉行……………(一七)
- 八、ボチカレワ司令官……………(一九)
- 九、ある勇敢な日本の女性……………(二六)
- 一〇、男軍と女軍は並立するか……………(二九)
- 附録、ソ聯の國境を守る軍用犬……………(三一)



各國女兵士の出現

尾 瀬 敬 止

一、日支事變と女軍の出現

突如として東亞の一角に捲き起された日支事變も、我が皇軍の甚だ果敢な戦闘と連戦、連勝とによつて、早くも敵軍に殲滅的の大打撃を與へた。そして、最近には南京遷都説さへ流布されるに至つたが、少しく炯眼を有する人ならば、その眞の敵が支那人でないことを知つてゐるだらう。若しさうだとすると、今度の戦火は、到底蔣介石が下野して、北支における日本の權益が確保される位では收まらない。忌憚なくいふと、この支那を中心として、いつ某國と某國との關係が緊張し、第二の世界大戰が勃發せんとも限らない危険を充分孕んでゐるのである。

萬一、かゝる大きな危険が爆發する場合には——いづれの國でも同じであるが——その戦時には、もつとも肉體的に健康な、そして闘争力も逞しい男性が銃を持つて起ち上がるに違ひない。しかし、いくら豫後備兵をくり出して、また國民兵まで驅り出して、間に合はない時はどうするか？ さうでなくとも、女だとして、今言つた男性兵士の間伍して働く仕事はかなりにある。傷病兵の看護もさうなら、彈藥運びも同じことだ。假りに前線に出ないとしても、防空事業の手傳ひや何んかであらうから、今までの戦争の時のやうに、決して呑氣にはしてゐられまい。況してソ聯の『デザート隊』（數百の大型飛行機が、瞬く間に武装した一ヶ聯隊位の將兵をパラシュートによつて敵地に下降せしめ、相對國の敵陣地を背後から急襲し、又は同地の國民生活を攪亂することを目的とするもの）が問題になつてゐるやうな現在では尙更であらう。

斯かる最近の情勢では、男性ばかりでなく、やがて女性をも後方戦線から、彈丸雨飛の第一線に押し出すやうになつた。そして、現在では、支那をはじめ、蘇、獨、伊、米などの諸國にもいはゆる『女軍』の出現を見るやうになつたのである。

二、世界各國の女軍

つい先年の暮、東京では、例のダンスホール——『フロリダ』以下八ヶ所のダンサー連が、めづらしくも街頭に立つて皇軍の慰問金を募集した。次いで、どこかの聯隊へ行つて、兵營の見學から實際的を軍事教育まで受けたやうだが、かれらはきつと支那戦野にある我が將士の勞苦を思つて、あんな「愛國的な」行爲に出たのであらう。

しかし、このダンサー連の運動が、僕のこれから述べようとする女軍の運動と凡そ縁の遠いものであることは判り切つてゐる。ところで、ヨーロッパの婦人などは、歐洲大戰の苦汁を呑まされた後であり、その近くにはスペインの血腥い動亂があり、尙且つ第二次世界戦争の恐怖もあるので、さう安閑としてはゐられない。いや、どこでも軍備に汲々としてゐる際であるから。有事に處するために、婦人も相當に軍事的訓練を受け、中には正規的な組織を持つてゐるものもある。ナチ・ドイツがさうで、この國においては、歐洲戦争以後、婦人に對して大いに軍事

教育を施してゐる。そして、彼等の中には、赤十字の看護婦になつた者もあれば、クルツプ其他の軍需工場で働くやうになつた者が少くない。しかも奉仕的な無給の労働なのだ。この一部の者は戦火の間をくゞり、傳令から自動車の運轉から、土嚢積みの苦役にまで就いた。しかるに、戦後には、あの有名な「再軍備宣言」が發表されて、男子のやうに、婦人にも兵役義務が課せられる事になつたのである。

ところで、ここに問題があるといふのは、過去の歐洲大戦と次ぎの世界戦争における戦術上の相違といふ事である。つまり、近代的ないろ／＼の精巧な武器が發明されたために、この二大戦争の作戦ぶりが大いに違ふだらうといふ事だ。

早い話が、歐洲大戦は四年間繼續されたが、未來の大戦においては、その間に爲されたことを約數十日でやり了はせるだらうと、或る軍事家が觀測してゐる位だから、この事は、いはゆる空襲についても言へることで、今日の急速な飛行機の發達は、たつた三、四時間でベルリンを潰滅することが出来るとするハンブルグは？ フランクフルトは？ ライプツヒヒは？ ミュンヘンは？ ドレスデンは？——と言ふやうな疑問が自ら湧いてくる。だが、簡単にいふ

と、僅か一週間そこ／＼で、全ドイツの空を制覇することが夢ではなくなつたのである。

かういふ事になると、いよ／＼ドイツの運命が危いとあつて、近頃は同國內に多くの防空學校を設けるやうになつた。そして、この學校には特に婦人部を設けて將來における女空軍の卵を養成する可く少からず防空熱を煽つてゐるとか。

イタリイもナチ・ドイツに倣へて女軍を編成し、同國の統率下にあるエチオピアには、やはり婦人の義勇軍が組織されてゐる。だが、そのエチオピアと戦ふべく動員令が發せられた頃には、ピエルモント地方に、こんな反戰的(?)な運動が起つたものだ。と言ふのは同地方の多くの婦人達が、ミラノとツリーンの間を走る鐵道聯隊に立ちふさがつて、どうしても動かない。彼等の夫や兄弟を載せた列車の通過することを知つてゐたから。そして、

「私たちのいとしい男たちを戦場に送ることは絶対に反対です！」

と黄色い聲で叫んだ。そこで、憲兵隊が馳けつけて来て、彼等をやつと追ひはらつたといふ話である。

オーストリーも、ドイツやイタリイと同じく、あの恐しい全歐洲の戦禍に捲き込まれた國

だ。ところが。この國も、戦後の國家的調整といふよりは、第二の大戦争におびえて、しきりに軍備の強化に没頭してゐるらしい。そして。昨年あたりは、自國民に對して大いに祖國愛を喚起すると共に、婦人に向つても少からず銃後の責任を果たさしめようとした。たとへば、數千の若い女性をして學校の門から追ひ、かれらに課するに強制的な無報酬的勞働を以てした。いづれは軍需工場にでも追ひやつたのであらう。

今以て戦ひつゝあるスペインでは、この國が有名な「闘牛國」であるところから、その火のやうな情熱をもつた青年男女軍が相互にさかんに銃火を浴びせ合つてゐる。父と子が戦ひ、兄と妹が争ふといふやうな、もつとも悲惨な同胞戦だ。それだけに、この戦線に拾ふ話題には面白いものがあるが、女軍の活動などは、すでに「寫眞ニュース」として、我が日本の街頭に幾度か晒されたから、爰には省略しておく事とする。

兎に角、これらの諸國における婦人の好戰的傾向は、他の國々——イギリス、フランス及びアメリカ等にも波及しないでは措かない。そして、世界各國の中でも、特に歐米においては、婦人も戰爭熱に浮かされ、航空隊長になつてゐる者もあれば、地上部隊の一大隊を指揮してゐ

る者もあるといふ「盛況」ぶりである。

三、北支に暗躍するX廿七號

元來、支那は、もつとも封建的な國であると考へられてゐたが、近頃はなか／＼然うではないらしい。これは、孫文などが大いに新思想を煽つたからで、現に漢口にはその未亡人宋慶齡によつて創立された婦人訓練所なるものがある。ここでは、多くの若い女性たちが軍事教練をはじめ、諸種の兵器の取扱方から飛行機の操縦まで教へ込まれてゐる。そして、國民軍の銃後を守り、時には同軍に従つて宣傳その他の仕事に携はつてゐる。また、南京には、それ以上の女指揮官を養成する中央訓練所なるものが設けられてゐることを忘れてはなるまい。本年、同校から出た第一回の卒業生たちは、まだ免狀を貰つたばかりなのに、今度の事變に刺戟されて、もう全國的に配備されてゐるさうだ。

しかし、これらの女軍は、今日始めて出現したのではなく、嘗て蔣介石が國民革命軍を組織した當時には、約四百の女兵士も混つてゐた。

一方には、女共産黨員も、非常な熱心さをもつて軍事的に参加してをり、かれらの姿に至るところに發見することが出来る。何んでもその大部分の者は、もう十六位から黨員になることが出来、毎日兵式體操を習ひ、銃の手入れを教はつて、「速成的に」戦線へ送り出されるやうだ、恐らく、これらの連中がとき／＼塹壕の間に現はれて、我が軍にたいして可成り頑強に抵抗してゐるのかも知れない。新聞を讀むと、さういふ女兵士がちよい／＼頭を出すやうなことが書かれてゐたから。と言ふのは、かれらの間に、とにかくにも有名な黨員毛澤東、周恩来、朱德などの妻君も立ち働いてゐるからで、その一人は次ぎのやうな經歷を有つてゐる。元は家庭教師たつたが、いつか共産青年同盟に加はり、上海暴動の準備中に捕へられた。それから、釋放されると、モスクワへ黨から派遣され、歸國後ハルビンで再び捕へられた。後には、上海の煙草工場にもぐつて地下運動をはじめ、赤色新聞の編輯に従事する傍ら、ゴーリキー記念演劇學校を創設した。尙ほ脚本の創作が少くない、と。

上海と言へば、その以前の事變があつた時、こんな噂が立てられた事がある。支那の某聯隊長が不幸にして戦死した。すると、その友人である他の部隊長の妻君が之れに代らうとした。

だが、一應「紅軍」(支那の赤軍のこと)の軍事委員會に諮すと「宣しい」とあつたので、この女が聯隊長として花々しく戦線に立つたといふのだ。

さもかと思ふと、——日本の一新聞に出てゐたリユースであるが——次ぎのやうに大膽な女軍のにスパイもゐるやうだ。これは、北支方面の良郷で起つた事件で、その町が日本軍に占據されたので、

『良民はみだりに外出することを禁ず』

といふ布告ビラを貼り出した。だのに、夜遅く三十位の男がさまよつてゐたので捕へて見ると、王何がしといふ支那青年であつた。彼は便衣隊の一人であつたのが、間もなくそのワイフと稱する三十女も引つ立てられた。よく調べて見ると、その手に持つてゐた新聞の包みの中には、我が部隊の編成圖を忍び込ませてゐた。そこで、女だてらに、日本軍の銃剣下をくゞつて城内にもぐり、便衣隊の手先となつて暗躍してゐた、X二十七號の密偵であることが判つたといふのである。

ところで、これは餘談だが、日支事變の經驗によると、こんな一寸不思議な現象も見られる。

とか。つまり、その戦野に立つた支那の女兵士は、男兵士とそ同じやうな過激な戦闘に加はるためか、熱れも月経が停まつたことを自認するほどに中性化する。そして顔色も表情も體格も殆んど男のやうになると。

四、ソウエートの女兵士

各國の女軍の中でも、もつとも興味を有たれるもの一つは、ソウエート聯邦のそれであらう。この聯邦では、徴兵令によつて、男子は十九歳から四十歳までの者が凡て兵役に服する事になつて居り、別に義勇兵制度も設けられてゐる。そして、婦人もこれに服すと事が出来るやうにはなつてゐるが、文字通りの「正規な」女軍はまだ編成されてゐない。と言つても、決して馬鹿にならぬ譯は、かの有名な半官半民團體——オソウイアヒム（國防飛行化學協會）の組織を一寸覗いたゞけでも判る。無論、この老大な團體は、單に婦人の軍事化ばかりに奉仕するべく設けられてはゐない。だがあらゆる學校にも、工場にも、また農場にも、それ／＼支部を有つてゐるで、國家危急の際における適當な補充員の養成機關としては、なか／＼侮り難

い。何なら、一九三四年と一九三五年の二ケ間に、次ぎのやうな素晴らしい統計數字を示してゐるからだ。つまり、市民九十九萬人が狙撃手として訓練され、百萬人が防毒練習を行ひ、また五十萬人が調馬術を習得してゐる。なほ、この團體には、實に婦人飛行學校が九つも所屬してゐることを忘れてはならぬ。そして、モスクワに國際婦人デトが催される時などは、そこに集つた數百數千の女性群が直ちに大々的な國防運動にかはり、毒ガスの防護法や、戦死傷者の收容から看護までの凡てをやつて退けたのである。

ところで、ソウエート聯邦では、この國防運動を行ふ場合に、たゞ熱心にやれと言つただけでは承知しない。それは、凡の産業界における能率運動——スタハノフ主義者のやうに、きつと「競技的に」仕かけられるのである。一例を挙げると、たしかハバロフスクにあるモロトフ紀念工場の或る若い女工は、濠々たる毒ガスの煙が上つてゐる三百五十メートルの距離を五分間走りつゞけて、目ざす「傷病者」の傍に辿りついた。また、同じ毒ガスの煙の中で、二十五メートルの距離を歩いて、假想の敵をうまく射撃することに成功した。かと思ふと、グロデコオ守備分隊長の妻君は、その小銃の射撃競走で、五十點満點のところを四三・九の高點をと

つたといふ話だ。守備分隊長の妻君と言へば、その一人などは射撃や乗馬の稽古はおろか自分も兵卒といつしよに戦ひ、時としては所屬部隊を指揮する事さへある。

しかし、ソウエートの婦人たちは、國內戦争の炮火には見舞はれたが、外敵による血腥い戦争の洗禮を受けてはゐない。だから、この意味においては、まだ、眞にセンチシヨナルなニユースなんかは見當らないのである。

五、歐洲大戰當時とロシア婦人

そこへ行くと、歐洲大戰の戦禍をしみじくと體驗した帝制ロシアの婦人の方が、われ／＼に確かに好箇な話題を投げしてくれるかも知れない。斷はるまでもなく、この戦争は有史以來の大悲劇であるだけに、各國ともに舉國一致の精神をもつて戦ひ抜いた。殊に、舊ロシアは、戦勝の喜びに恵まれず、その上に自ら單獨調和を提議した建前でもあつたから、戦争の痛手は非常に大きかつたのである。

最初、ロシアは宣戦の布告をすること、先づ全國民が一人になつても國難に殉ずるべく

決心した。その證據には、あれほどウオツカを戀しがつてゐた多くの上戸黨が禁酒令の布かれたことを耳にすると、もう殆んど盃を手になかつたといふ事からでも想像される。もつとも、アル中連は、夫れを高い値段でこつそり買ひ込んだり、時には、滑稽にもオデコロンを呑んだりするやうな芝居も演じたらしいが、ところで、かういふ愛國的赤心の現れが、男子ばかりでなく、どうして熱情的な婦人たちを動かさずにあるだらうか。早い話が、上流婦人は、莫大な戦費の一部にでも充てようといふ考へから、それを集めるための或る組合を設けた。といふのは、かれら婦人の一年に使ふ経費の内、大部分を占めてゐるのは、たゞ外見を飾らうとする衣類なのだ。無理もないのは、毎日々外着をとり換て行かないと、貴族たちの交際社會では爪はじきされたから、そこで、それだけの經濟的餘裕がない者は、一枚の着物を何度も縫ひ直しては出かけたものださうな。——しかし、さうした贅澤な習慣を破つてしまへば彼女らの手許には何がしかの金が残るわけであるから、これを國家のために献金しようと思つたのである。もう一つ、婦人たちの美學を示すならば、その頃アルミニウム指輪といふものが大いに流行した。なぜといへば、その敵國ドイツが銅を手に入れる事に困つて、彈のケースを

アルミニウムで拵へてゐることを知つた。だから、たとへ幾分かでも、この原料を少くしてやらうといふ女らしい敵愾心からかういふ變つた指輪の流行を見たといふのである。

ところで、ロシアの婦人たちは、今言つたやうな銃後の忠誠を示したばかりでなく、自ら銃をとつて第一線にも起たうとした。それが——これから述べようとする『女軍』の編成なのである。

六、女子決死隊員の募集

元來、ロシアの軍隊は強い筈であるが、その兵士に對する待遇が良くなかつたり、また將校がいやに威張つたりして、とかく軍律が亂れ勝ちであつた。早い話には、一寸した行きぢがひから、憤慨した將校が唾を吐きかけても、兵隊の方では只だ黙つてゐるより他はなかつた。時には陸軍大臣の憎むべき賣國奴的陰謀事件が明るみに晒け出されたこともあつた。そんな理由もあつて、尉官乃至佐官級の將校の中には、随分いかゞはしい分子も交つてゐたのである。

そこで、或る氣眞面白な婦人たちは、かれらの不行狀をいま／＼しさうに眺めながら、こん

なことを自分の心の中で叫び合つた。

「私達だつて、少し覺悟しなへすれば、戦争に行けないものでもないわ」

そして、その長い黒髪を男のやうに短く刈りとり、どこかで探し出した軍服をちやんと着て悠々と戦線へ出かけた者もある。無論、かれらは銃剣を握り、他の兵士と行動を共にしてゐるので、誰も疑ふ者がない。太いお尻の大きいのが、一寸目をひくとは——新聞特派員のヘラズ口ばかりではあるまい。但し、日露戦争の時にも、こんな事もあつた。男と一諸に従軍したいばかりに、すつかりカモフラージュして、さも士官の從卒らしく戦線に立ち、不幸にも戦のために仆れたといふやうなロマンスも無い事はないが。

しかし、こんなのは例外であつて、普通の女兵士たちは、とにかく既定の手續きを踏んで、ここに始めて入隊するのである。と言つても、婦人たちには、別にやかましい兵役法も設けられてはゐないので、ことの最初には次ぎのやうな宣傳をしたものであつた。つまり、當時の首都——ペテルブルグでは、この宣傳隊が

「女子決死隊員募集！」

と大書した旗を持つて町々を歩き廻つた。そして、自分たちの檄文と共に、左のやうな宣誓書（入隊届）を振り撒いた、その主なる項目としては――

- 一、國家の體面、自由、及び幸福の尊重
 - 二、軍規の嚴守
 - 三、勇氣を保ち誠實なること
 - 四、命令一下軍務に就く時は、細心にして機敏又勤勉なるべし
 - 五、上官の意志を尊び、相互に信じ合ふ事によつて國家を安きに置くべし
- 尙ほ、入隊希望者は十六才以上の女性と限られ、軍醫の身體検査を受けた上で許可されるのだが右の宣誓書に認められた義務を怠ると、「ロシア婦人を侮辱する」ものとして、嚴罰に處せられる事になつてゐた。
- かくして募集された女兵士約二百名によつて、世界にもめづらしい、ロシアの女軍（正しく呼ぶと――婦人決死大隊）は始めて誕生したのである。

七、盛大な閱兵式の舉行

一九一七年六月、ロシアの女軍は、ペテルブルグに於いて盛んな閱兵式を行つた。この閱兵式に参加した女兵士たちは、數日の間、全く普通の兵士と同じうやな軍隊生活をし、また厳格な軍事教練を施されたのである。そして、その中から、選ばれた女子將校の指揮のもとに分列式を行ひ、露都軍管區司令官の檢閲を受けたのであつた。女軍の服装は、別段男の兵士と變つた所がなかつた。なほ乗馬隊もあれば、機關銃隊もある。ところで、この中の第一小隊はもつとも拔群で、皆んな背が高く、見るからに堂々としてゐた。だから、かうポロフツエフ軍管區司令官は絶讚したものである。

「余は大いに満足である。とりわけ規律の嚴肅なのを見、軍隊にもつとも必要な士氣の潑刺たるものを認めて、愉快に堪へない」

それから、女軍の創設者ポチカレワ女史と親しく握手して、兵營を去つたのであつた。

嗣そこで、四月の二十三日には、この女軍が早くも戦地へ出發する事になり、その前にカザン

大寺院で祈禱式が行はれた。とあつて、ペテルブルグに駐劄するイタリーとアメリカの二大使までが参列した。大寺院前の廣場には、素晴らしく多い群衆が雪崩を打つて押しよせ、ポチカレワ指揮官に赤い薔薇の花束を捧げた。すると、かれらはウラー！ウラー！と叫び立て、この勇しい女軍をワルシヤウ停留場の方へ見送つたものである。

ロシアの女軍はリガ方面に派遣され、そこで逢つたドイツ兵と大いに戦ひ、敵の捕虜まで引つ捕へて凱歌を上げた。だが、味方の損失も少なくなく、戦士二〇名、負傷三〇名を出したと傳へられてゐる。しかし、某シベリヤ狙撃軍團長の話によると、こんな報告も齎されてゐる「かれらの戦闘行爲はたしかに大膽であるが、その體力はどうしても男子に及ばない。たゞ、かれらが兵士の殺伐な心を和らげ、時としては逃亡兵の卑怯を戒しめることに役立つ」。と言つてもこの軍團長は、女軍の存在をすつかり否定したのではない。何故なら、最後に、次ぎのやうに正直に告白してゐるのである。

「予は、各軍に、少數づつの女兵士を配置することを甚だ有意義であると思ふ」

この粹な軍團長の話は、いかにも尤もであるが、だからと言つて、餘り女の藥が男兵士に利

きすぎても困る。それと言ふのは、女兵士が往來を通りかゝると、ある男の將校なんかは、不謹慎にも恭々しく敬禮をしたものだ。その上に握手を求めたり、甚だしいのになると、彼女の手をとつてレストランへ出かけたのであつた。尙且つ、レストランの中で、更に亂痴氣が始まつたといふのだから、こやつはチツと鼻持ちがならない。

それは兎に角として、このポチカレワの女史決死隊ばかりか、他の女軍も對獨戦線へ送られたらしい。しかし、いつかロシアの國情は一變して、かれらの武器は、外敵のためではなしに内敵と戦ふべく向けられたのだ。と言ふのは、過激派のために、ペテルブルグの冬宮が包圍されようとしたから、そこで、女兵士たちは、男子側の兵士と一緒に防禦しようとしたが、とうとう敗けてしまつた。その結果、或る者は遁れ或る者は仆れた。そして、死體は宮殿の下を流れるネワ河に投ぜられ、ここに——舊ロシアの女軍は潰滅する事になつたのである。

八、ポチカレワ司令官

ロシアの女軍——婦人決死大隊は、敢なき最後を遂げてしまつたが、見ようによつては、そ

の存在が帝政ロシアの最後を飾る花であつたとも考へられよう。何んとなれば、過激派による冬宮の奪還はとりも直さず舊ロシアの没落を意味し、この政權を守るために彼等決死隊員は斷末魔的の奮闘を試みたからだ。と同時に、婦人決死大隊の創設者であり、その總司令でもあるボチカレワ女史の事蹟を忘れることは出来ないであらう。

マリヤ・ボチカレワは、西伯利のトムスクに生れた女で、その家は百姓であつたといふから別に教養らしい教養を受けてはゐないことは斷はるまでもない。いや、全く無學文盲で自分の名さへ書けない位であつた。たゞ、父親が露土戦争に出征し、不幸にも兩足を失つてゐたといふから、かういふ事實が自分の娘を好戰的にしたことだけは記憶しておいて良からう。次ぎに示さうとする彼女の數奇に富んだ經歷を知るためにも――

十二の春を迎へたばかりのボチカレワは、雪のシベリヤからツンドラのロシア本國に送られ或る陸軍士官の家の子守女となつた。それから、四年といふ歲月が夢のやうに過ぎると、故郷にある兩親は、そろ／＼娘の身の上を心配し出した。そして、その勤めてゐる小さな食料品店に、同じく働いてゐる男と目出たく結婚させたのであつた。けれども、凡そこの人間の運命は明

日をも測ることは出来ない。この二人が楽しい家庭を有つと同時に、歐洲大戰の幕は切つて落され、自分の夫が出征する事になつたからだ。當時、彼女は二十八の女盛りであつたのである。

ボチカレワは、夫を戦地に送つてからと言ふものは毎日、創擊相摩する戦線のことを想像してゐた。だから、出来ることなら、義勇兵としてでも従軍したいと望んだが、年老いた兩親を養ふ義務が残されてゐたので、どうにも意に任せない。でも、男まさりの彼女は、とう／＼出征を決心し、その筋に願ひ出た、ところがやがて採用の通知を受けた。そして、トムスク豫備第二十五大隊に編入された、彼女こそ――歐洲大戰に参加したロシア最初の女兵士だつたのである。

最初の女兵士と言つても、銃の持ち方も知らなければ、まして照準の狙ひ方なんかは少しも御存じないボチカレワである。そこで約二ヶ月間、某聯隊の飯を食つて教練を覚え、始めて露獨國境アロダク湖畔に派遣された。そして、不慣れた塹壕生活に入ると、間もなく陣中で決死的斥候隊が募集された。この時、彼女は自ら進んでその一人に加はり、女戦士としての輝かしい

將來への第一歩を踏み出したのだ。ところで、何んと言つても十二月の事であつたから、寒さは寒し、道は膝まで埋めるやうな深い雪だつた。ポチカレワは、全部で二十名の斥候隊と共に前面の敵情を窺つてゐる内、偶然にも、その側面から大部隊の敵兵が現はれたことを知つた。いや、それどころか、かれらは敵兵のために包圍されて了つたのである。だから、止むなく遁げようとする、背後から大男のドイツ兵に追つかげられたので、今はすつかり覺悟をきめて向き直つた。そしてその銃剣でもつて、見事に敵の胸部を刺したのであつた。だが、たつた二ヶ月足らずの訓練を行つた彼女であつたから、過度の昂奮と驚愕を覚え、その刺し貫いた銃剣を放り出したまゝで基地に歸つた。そこで、ポチカレワが、誰の目にも女兵士であることが始めて判つたといふ話である。

それは兎に角として、第一線において敵を刺し殺すことに成功したポチカレワは、翌年三月の大攻撃陣においても花々しい勳功を立てた。と言ふのは、自分の手と前膊部に負傷したるにも係らず、なほ前進をつゞけ、敵陣地内に倒れてゐた味方の一將校を救ひ出したのであつた。そして、翌日も戦つたが、二日目の奮戦では、敵弾が胸部に貫通し、とう／＼キエフの野戦病院に收容された。だが、名譽の戦傷を負つたおかげで、聖ゲオルギー勳章を授けられたのである。

ポチカレワは、わづか二ヶ月半入院したゞけで、オーストリー國境近くへ出勤した。そして、相變らず元氣で軍務に就いてゐる内、測らずも自分の夫にめぐり會はず機會を得たのだ。出征後滿一ケ年のことである。それと知つた大隊長は、特別のはからひで、この二人を同じ中隊に編入させた、そこで、彼等は舊に倍する力戦に努める事になつたが、同年六月の一大血戦が展開された時、少しも豫想しなかつた悲劇が演ぜられた。それは彼女の中隊が敵の猛攻を蒙つたので、餘り遠くないところで奮戦してゐた夫が敵弾を受け、遂に戦死を遂げたことを言ふのである。おまけに傷ついた彼を看護しようとした彼女まで重傷を負ひ、その場にバツタリと仆れた。かくして、ポチカレワは、再び赤十字病院に呻吟する事になつたが、お蔭で特務曹長に昇進したのであつた。

ポチカレワは、他の十餘名の負傷者といつしよに戦線から後送され、露都の病院に入院した。その中でも、彼女をはじめ、副官のスクライドロフなどは重傷であつた。比較的輕傷である

某女兵士は、自分たちの戦況について次ぎのやうに語つた。

「われ／＼決死隊がもつとも苦戦したのは——スモルゴン附近の戦闘です。私たちは、敵の一部隊が攻撃してくるのを見たので、眞つ先に「進軍！」と叫びました。最初、ドイツの軍隊は、女の聲が聞えたので、少々間誤ついたらしいのです。この機に乗じて、敵に一大打撃を與へましたが、ドイツの捕虜の中にも、女兵士がまちつてゐたのは甚だ奇縁でした。

しかし、この新特務曹長に、二度目の負傷ぐらゐでは凹まなかつた。三度び戦線に現はれた彼女はもつとも至難な斥候隊長として、いつも敵状視察の重任に就いた。ところが、にはかに敵の大軍に襲撃され、味方の兵士七萬名が捕虜になつた。この中にボチカレワも入つてゐたのであるが、オーストリーの司令官は、彼女の健闘ぶりを聞いてゐたと見えて、別に手荒いことなどはしなかつた。その上に、野戦病院の傳令使といふやうな閑職を與へたのである。だから暫くの間は忠實に働いてゐたが、或る日司令官にかう頼み込んだものであつた。

「本國に幼い子供を残してをりますから、どうぞ早く歸國させて下さいまし」
そして、ボチカレワは、うまく祖國へ歸つたのであつたが、この時、ロシアには一九一七年三

月の大革命が勃發したのである。

ボチカレワは、まだ決して戦意を失つたわけではないが、假りにも敵軍の捕虜になつた關係上、一と先づ自分の郷里に歸る事となつた。そして、歸る途中にベトログラード（昔のペテルブルグ）に立ち寄つて見ると、かねて彼女の赫々たる武勳を聞いてゐたケレンスキー陸相はわざ／＼自分の手許に引見したものであつた。その時、同陸相が、

「何か希望することははないか？」
と尋ねたのに對して、

「私は婦人の義勇隊を組織したいと思ひます。と申しますのは、戦争になることを好まないやうな男子を激勵したいからです」

とキツパリ答へた。そこで、ボチカレワを中心に、始めて「婦人決死大隊」なるものゝ編成が企てられた。同時に、一躍して、彼女を特務曹長から陸軍中尉に榮進せしめたのである。

しかし、何んと言つても、女軍なんかといふものを編成することは、さう手易い仕事ではない。そこで、前に説明したやうな檄文を草し、これを全国的に配布すると共に、露都の一流劇

場で決死的な女兵士募集と言つた大會を開いた。この大會の席上においては、ケレンスキー陸相自身がボチカレワを聴衆に紹介し、彼女は生れてはじめての演説をした。無論、その演説は簡単なものではあつたが、大きな感激を聴衆に與へたので、かれらは三十何貫ある彼女を胴上げして、わざわざ同會場からホテルまで送り届けたとか。

斯くして、女兵士の募集にとりかゝつて見ると、意外に應募者が多く、たちまち二千人に及んだ。だが、その一人々々を檢査して見ると、白粉をコツテリつけたり、口紅を塗つたり、かと思ふと、夜會服式の華美な服装をしてゐる者が少くなかつた。だから、うんと飾にかけた揚句に選んだのが二百人であるが、この中にぐつと毛色の變つた女がゐた。果して彼女は何者であらうか？。

九、ある勇敢な日本の女性

それは——日本の若い娘である。日本の若い娘である。と言つたら、讀者の中には不思議に思ふ人があるかもしれないが、決して「嘘」ではない。

この不思議な女は、哀れな孤兒であつたところから、さるロシア人に養はれる事になり、日本からはる／＼ロシアに渡つたものと噂された。しかし、大分事實に相違があるらしいが、ボチカレワの婦人決死大隊に加はつて出征したことだけは確かだ。そして、露都の病院に入院する事になつたので、ある日ロシアの陸軍省から、

「貴國の婦人が負傷して入院してゐるから、どうぞ見舞ひに行つてくれ」。

と、我が駐劄武官に報告して來たのである。そこで、早速、某紙の特派員が彼女を訪問したが、以下に示すのは——そのインターヴューの要領である。

右の特派員は、露都の近郊にある市立病院を訪ねて行つたが、合憎、その女は一寸姿を見せなかつた。もう可成りに快くなつたので、夕方の散歩に出てゐたのだ。暫く待つ内に歸へつて來たので、名刺を渡すと、淋しく微笑みながら面會した。そして、二人の間には、こんな談話が交はされたのである。

「貴女が決死隊の日本人ですか？」

「ええ。——私はアチル・インヂアナと申します。東京から來た者です」

彼女は、日本名を名乗らないし、ロシア語を使つても、日本語は話さない。

「ええ、私は日本語はちつとも出来ませんの。私の兄は少々出来ます。兄ですか？只今モスクワの士官學校に在ります。私は、十年前に、兄といつしよに旅順や大連を通つてモスクワに参りました。今では、ロシアの國籍に入つてをります」

「どうして貴女は決死隊に入る氣になつたのですか？」

「只だ、何がなしに入つたのです。別に理由なんかありません」

「貴女は勇敢に戦ひましたか？」

「ええ」

「どここの戦線に立ちましたか？」

「西北戦線のスモルゴンとクレオの戦闘に加はりました」

「……………」

「ボクシンスキーの森の中では機關銃を二門分捕りました。ドイツの捕虜も」

「貴女自身でそれを分捕つたのですか？」

「私が引つばつて歸りました。でも——男の兵隊なんかは皆んな遁げて一人もゐないのですも」

「やつぱり、日本人の血が、貴女を勇敢にしたのですね」

「左様です。日本人の血が私を勇敢にしたのです」

かうして、二人の異郷にある日本人の對話は、いつまでも終らうとはしなかつた。だが、日もタツブリ暮れたので、その特派員惜はしくも別れを告げたのである。

一〇、男軍と女軍は並立するか？

その後、婦人決死大隊は、ベトログラードばかりでなしに、またモスクワでも募集を始めたそして、ポチカレワ自身も同地へ出かけたが、もう以前のやうに人氣を引かなかつた。そればかりか、彼女は、群衆の間から、こんな怒號と罵聲をもつて迎へられたのであつた。何故ならロシアは、やうやく過激派——現在の共産黨員が勢力をもたげはじめた時だつたからである。

「あいつは空恐しい女だ！」

「女皇帝が再現したぞ！」

「伸ばしてしまへ！」

すると、群衆の中の五六人の者がドウと押しよせて来て、彼女を無理に馬上から引きずり下ろした。あとは打つ、蹴る、踏むといった調子で、さんぐの目に逢つた。だが、やうやくツホフスキー將軍の自動車に救はれて幸にも急場を越れたのであつた。

爰において、流石のポチカレワも時代の變つたことを痛感して、暫く間故郷に歸つてゐたしかし、その父母の家にも落ちついて居られずに浦鹽へ出た。それから、亡命者宜しく歐米の旅に上つたが、再び祖國の土を踏んだ時には、ソウエート官憲のために「反革命家」として哀れにも銃殺されたと傳へられてゐる。

ソウエート聯邦においても、さかに國內戦が戦はれた時分には、一度ならず婦人たちを動員したものである。かれらの多くは、男子の居なくなつた工場で働き、戦線に立つた軍人連の家庭に出入りして何かと世話をやき、時には、バリケードの傍らに佇んだこともあつた。だが、今日では、いづれも家庭にあつて、直接には軍隊と關係を有つてゐないやうだ。もつとも、本

文の始めの方に述べたやうに、國家危急の場合には、何時でも敢然として立てるやうに、例の國民軍事化團體——「オソウイアヒム」などと密接な交換をもつて、有事の際に備へてゐるらしい。尙ほ、これと同じ事がソウエート聯邦ばかりではなく、他の歐米諸國の婦人に就いても言へると思ふ。多少の例外はあるにはあるが。

要するに、現在は、各國ともに、いはゆる「女軍」なるものが男子軍と並立するだけの必要を認めてはゐないらしい、何故なら、いかなる婦人たちでも、かれらは矢張り銃後の守りとなるべきものと大體の相場が定まつてゐるらしいのだ。簡単にいふと、をのづから定められた家庭における夫婦間の立場と言つたやうに、しかし、近い、または遠い將來はどうであらう？ 男はいつまでも女を屈從せしめてゐる事が出来るか。いつか女は男と同じ位置を占めるのではないのか。その場合には女軍と男軍の關係はどうなるのだらうか？、これらの問題の解決は——われ／＼の爲に課せられた、頗る面白い宿題の一つでなければならぬ。(完)

附録 ソ聯の國境を守る軍用犬

ソウエート聯邦では、その國境六萬五千キロを固めるために、要所々々には、きつと緑色の軍帽をかぶり、灰色の外套を着た守備兵を立ててゐる。守備兵たちは、星が降るやうな晩でも、また月がない暗い／＼眞夜中でも、右手に長い劍つき鐵砲を持つて、ぢいつと睨み付けてゐる。そして、何事かあると、夏ならば足の早い馬を、冬ならば飛行機を走らせるのだ。結局、彼等にとつては、さつ／＼と吹く風のひちめきも、木の葉のおちる音も、雨滴れのひびきさへ、決して聞き捨てにすることは出来ない。

極東の國境線もまた同じであるが、他に、この守備兵を助ける者が無いわけではない——それは誰だと言つたら、ちよつと驚く人があるかもしれぬ。しかし、軍用犬は、守備と搜索といふ二つの任務を負はされて、數多く使はれてゐるばかりか、時には人間以上の働きもしてゐる。であればこそ、かれら軍人の間では「信頼すべき友人」などと親しく呼ばれて、すこぶる重寶がられてゐるのである。

☆

むしろ、軍用犬は、獨りで活動するのではない。いつでも守備兵のそばにくつつてゐる。そして、かれの『命令』を受けると、何物を措いても直ぐに飛び出すのである。

ここに——レツクスといふ軍用犬がある。晝間、この類のひろい犬は、誰かに伐りたほされた樞の木の上にさびしく突ツ立つたりしてゐる。でも、彼には人間の話聲も、その動靜も、また森林のどよめきもチャンと判る。そればかりでなく、かうした森林には相應はしくないどんな響きでも、遠くの方からこゝに移つてくるどんな匂ひでも、嗅ぎつけることが出来る。たゞ固く禁じられてゐるのは、無暗に敵に双向ふことだ。もつとも、いよ／＼危急の場合になると、かれは猛然として相手の者につつかつて行く。最初には、自分の胸の強いショックで向ふの者をぶツ仆ふし、それから右手に咬みつくだらう。と言ふのは、その敵がもう武器を持つて起ち上がることが出来ないやうにする爲めに。

何んといつても、こんな物凄い肉彈戰をやるのは晝間でなく、眞夜中か明け方に多い。ところで森林の中は、さうでなくともお先き眞ツ暗だから、一足進めるのにも随分氣骨が折れる。早

い話には、敵味方ともにマッチを摺ることも出来ないのだ。と言つて、道らしい道がついてゐる譯でもないので、かれらは只だ土地のくぼみを拾つて行く外はない。だから、この森林の間をソツと縫つてゆく密輸入者や、敵の苦心は想像に餘りあるが、その間の消息をよく呑み込んでゐるのは——レックスである。

毎晩、レックスは、前足の上に靜かに頭を乗せて眠るだが、サーツと森林を渡る風が普段聞きなれないどよめきや、變つた匂ひを傳へてくると、彼はガバリと起ち上つて、ちよつと身振ひをし、全身の毛を怒つたやうに逆立ちさせる。そして、その異様なポーズで、怪しき者が間近かに近づいて來たことを、自分の傍にゐる守備兵に報告するのだ。だが、果して、件の男は何者であるか判らないし、中には、その右手を不氣味にポケットの中に突ツ込んでゐる者もある。さうかと思ふと、肩に背負つてゐるズツクの底に、井戸へほうり込む毒藥を侵ばせてゐる奴もあるから、守備兵の方では少しも油斷がならない。そこで、彼は直ちに道をふさいで、星の夜空に向つてズドンと一發放つのである。恐らく、それは、自分の味方を呼ぶ信號であらう。と同時に、銃の身構へをするのだが、その怪しい未知の男が、両手を高くさし上げても、

まだ安心してはいけない。誰かのやうに、傍へ近づくが、早いかカミソリで、鼻や頬ツベたをやたらに切られたといふ例もあるから。しかし、草叢かどこかにピストルを投げ出し、おとなしく跪いて、譯のわからぬ言葉で陳謝をしたのなら——もう大丈夫だ。

おや、いつか軍用犬の話では無くなつたから、急旋回をしよう。

☆

ソウエートの軍用犬が、どんな目的をもつた動物であるか、また、その役割はどんなものであるかといふ事は、もはや大體説明したつもりである。しかし、これらの軍用犬が實際的には果してどんな活動をするものかといふ事については、まだ充分述べてはゐない。だから、此所に、チンゴーと呼ぶ少し勇敢な犬を拉してきて、諸君に「實戰物語」をさせる事としよう。

チンゴーは、鬚鬚が出ツばつてゐて、そこだけに白い毛がはえ、あとはスツカリ鼠色の毛皮で覆はれた犬である。といふと、そこいらの小舎でクン／＼鳴いてる犬のやうに、いかにも平凡に聞えるが、かれはタゞの代物ではない。その證據には、何かの展覽會で名譽ある金メダルを貰つた位で、特に腕力が強いところから「犬狼」とも呼ばれてゐる。であればこそ、歐露か

らわざ／＼極東にさし廻され、今日は、國境守備隊長タボルキンの腰巾着になつてゐるのだ。ある日、タボルキンは、さる怪しき者が秘かに國境を越えようとしてゐることを知つた。そこで、彼はチンゴーの首に結はへた麻紐を急にゆるめる。そして、かういふ簡単な命令を下したのである。

「行けッ！」

チンゴーは、自分の肩を大きく波打たせるやうにして、遁げてゆく密輸入者達のあとを追つかけた。それこそ電光石火の早業だ。そしてかれらの一行が散り／＼ばら／＼になると、鋭い齒をムキ出して、その一人々々のそばに詰め寄つた。だから、すつかり怖毛立つた皆の者は腰を抜かして、そこにジーツと蹲つてしまつたと言ふのである。

かういふ風に説明すると、密輸入者たちは、いかにもノラクロの集りであるやうに見へるても、兎に角、異國の國境をこつそりと越えようとする——まさかの場合には「銃殺を覺悟」のかれらの事であるから、それ相當に智慧を働かせてゐる。先づ、自分たちの通路には胡椒を撒らしておいて、それで無くとも鼻をうごめかして通るチンゴーに嗅ぎ付けられないやうにする。

この方法は、チト月並であるが、次ぎのやうに奇抜な輕業式の芝居もやつてゐる。かれが近か付いてくると、沼蔭にソーと忍ぶことはおろか、そのドス黒い水の中にさへ飛び込んでゐる。櫓に乗つてゐる間に見付けられさうになると、それを頭から、スツボリ冠つて、自分の姿を隠さうともしてゐる。そして、櫓の中では、着てゐる洋服を引き裂き、その切れツばしで、犬をムンズとつかまへる良まで作つてゐる。あべこべに、お仕舞には、捕まへようとした方が捕へられた形になつたりするのだ。

かうして密輸入者たちの一團は、總勢二十一人が國境守備隊の手に渡されたばかりではない。それから、半時間も過ぎた頃には、やはりチンゴーの鋭い嗅覺により、かれらが秘かに某河岸の砂の中に埋めておいた現物まで發見されたのである。

☆

以上は、主に露紙『イズウエスチャ』の記事によつて紹介したもの。だいたい手前勝手なところもあるやうだが、嘘ではあるまい。これを讀むと、ソ聯の極東國境が、いかに嚴重に守備されてゐるかといふ事が分つたと共に、その軍用犬の活動ぶりも略ぼ窺ふ事が出来よう。

社告

蘆溝橋事件に端を發した日支間の紛争は忽ち北支の空を覆ひ、其波及する所南支に及び、其の間にはありて、皇軍の惡戰苦闘と銃後の國民一致協力とは遂に實を結び、さしも頑強に抵抗を續けた上には落ち南京も吾が手中に歸し、蔣政權も一敗地にまみれて暗雲低迷せる北支、上海、江南の空にも和平の曙光が輝き初めました。亞細亞出版社は文化の先驅として、亞細亞大陸に雄飛すべく着々と其の計畫に向つて邁進せんとして居ります。金城鐵壁、何卒御愛顧の程を希望して止まない次第であります。

▼パンフレット出版▼月刊漫畫情報
▼各種圖書出版並取次▼月刊喫茶街

東京市下谷區車坂町八九

亞細亞出版社

電話下谷(83)四七六七番
振替東京七一五二七番

各國女兵士の出現

定價十錢
送料三錢

昭和十三年一月廿四日印刷
昭和十三年一月二十七日發行

著述者 尾 瀬 敬 止

編纂兼 坂 梨 正 明

發行者 東京市麴町區三丁目十二番地

印刷所 東水印刷所

印刷人 廣安與三右衛門

東京市下谷區車坂町八九

發行所 亞細亞出版社

電話下谷(83)四七六七
振替、東京、七一五二七

終

亞細亞出版社